

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号

令和6年9月12日

岐阜県

作物名 大豆

病害虫名 吸実性カメムシ類

(ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ など)

1 発生地域 美濃地域（岐阜・西濃、中濃、東濃地域）

2 発生時期 9月中旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 予察灯による6月第1半旬から8月第6半旬までのミナミアオカメムシ累計誘殺数は、海津市で209頭（平年27.1頭）と、平年の約8倍となっている（図）。
- (2) 出穂した水田では、ミナミアオカメムシやアオクサカメムシの発生が顕著に確認されており、収穫後に大豆ほ場へ移動することが予想される。
- (3) 名古屋地方気象台の1か月予報（9月5日発表）では、気温は平年より高いと予想されており、吸実性カメムシ類の繁殖に好適な条件が続くと考えられる。

5 防除上の注意事項

- (1) 莢伸長後期（開花20～30日後）と子実肥大中期（開花40～50日後）の防除を徹底する。
- (2) 散布後もほ場内に吸実性カメムシ類が確認される場合は、追加の防除を実施する。
- (3) 成幼虫は主に着莢部に生息するため、薬液が着莢部に十分付着するよう散布する。
- (4) カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤連用は避ける。
- (6) 農薬の使用にあたっては、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともに、ミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。

(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

<参考資料>

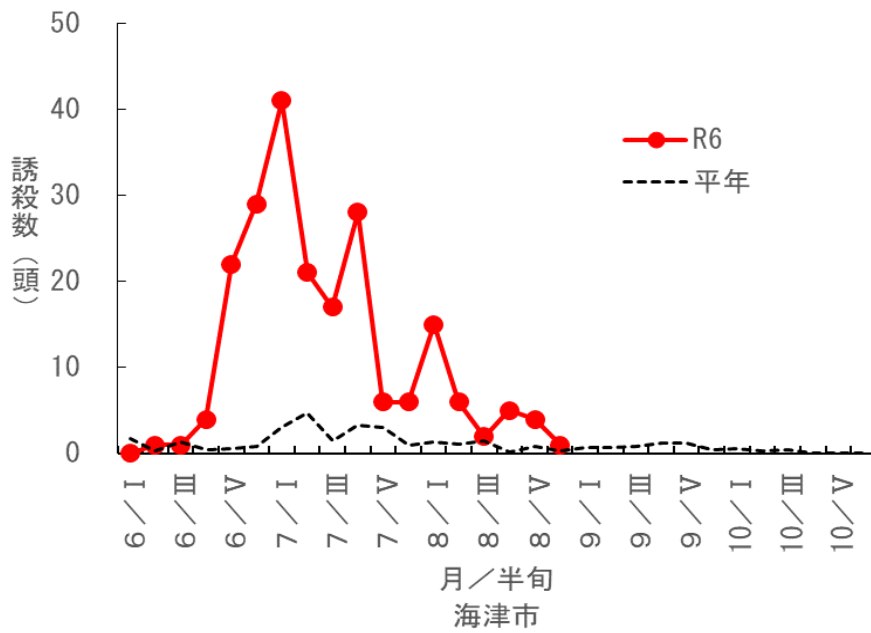


図 予察灯におけるミナミアオカメムシ誘殺状況 (海津市)

○大豆を加害する主なカメムシ類と加害のようす



ミナミアオカメムシ (成虫)
(体長 12-16mm)



アオクサカメムシ (成虫)
(体長 12-16mm)



イチモンジカメムシ (成虫)
(体長 9-11mm)



莢に群がる幼虫
(ミナミアオカメムシ)



吸実性カメムシ類による被害粒